

カリキュラム区分		現行カリ		シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選区区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
助産学実践領域	S117	1年	通年	助産学専攻科	必修	助産管理	30	2
						Midwifery Management		
担当教員								
今村 朋子		赤穂 静香＊		武智 恵子＊		井上 明子		瀧本 千紗
関連するDPキーワード								
	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。							
○	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。							
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。							
	④ マタニティサイクルにある対象の個性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる							
○	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。							
○	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。							
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。							
授業目的								
助産師の業務範囲や法的責任などの助産管理の基本知識と助産業務管理の実践を理解する。様々な場での管理(産科病棟、院内助産、クリニック、助産所、災害時)の実践については、オムニバス方式で各実践領域を専門とする教員からの講義で学ぶ。さらに、発表やディスカッションを通して管理と実践のつながりや将来のキャリアプランについて、自らの考えを深める機会とする。								
到達目標（授業目標）								
1. 様々な場における助産業務管理や、多職種連携の中における助産師の役割について説明できる。								
2. 実習施設の助産実践システム調査をふまえて、多様な実践のあり方について管理の視点から理解を深めるとともに、母子を中心とした、よりよい実践の変革に向けて意見を述べることができる。								
3. 助産業務ガイドラインに基づくリスクマネジメント判定を行い、安全管理について考察できる。								
4. 助産所の開業計画を立案し、助産実践の場を自ら創造する意義について考えることができる。								
回	授業計画（項目・内容与方法・担当者）							
1回	助産業務管理の基本と実践：助産業務・助産管理の概念、助産と医療経済、法的義務、助産実践システム調査課題について 【今村】							
2回	総合周産期医療センターにおける助産管理：周産期医療システム、総合周産期医療センターにおける助産師の役割、産科病棟管理、リスクマネジメント、人材育成 【赤穂】							
3回	クリニックにおける助産管理：クリニックにおける助産師の役割、無痛分娩の管理、リスクマネジメント 【教育協力者・今村】							
4回	院内助産システムにおける助産管理：院内助産システムとは 助産外来・院内助産の実践 【教育協力者・今村】							
5回	災害時の助産活動：災害を想定した日常の訓練、被災地施設との連携、助産活動の実践 【教育協力者・今村】							
6回	様々な助産実践システムの現状分析と今後の展望（発表とディスカッション1）：母子を中心とした助産実践システムとは ケアの変革に向けたチャレンジ 【今村・井上・瀧本】							
7回	様々な助産実践システムの現状分析と今後の展望（発表とディスカッション2）：母子を中心とした助産実践システムとは ケアの変革に向けたチャレンジ 【今村・井上・瀧本】							
8回	様々な助産実践システムの現状分析と今後の展望（発表とディスカッション3）：母子を中心とした助産実践システムとは ケアの変革に向けたチャレンジ 【今村・井上・瀧本】							

9回	助産業務ガイドラインに基づく事例分析（発表とディスカッション）：助産業務ガイドラインの活用 医療連携と搬送の判断、転院・搬送時のケア 〔今村〕									
10回	助産所とは（※４月に実施）：助産所の管理に関する法規 〔今村〕									
11回	助産所の管理運営の実際：安全管理と医療連携・施設管理 助産所経営者に求められる姿勢 〔武智〕									
12回	助産所の管理運営の実際：妊産婦管理の実際と地域母子保健活動 〔武智〕									
13回	助産所開業に向けたビジョン：助産所開業計画の発表 〔武智・今村〕									
14回	助産師活動の拡大に向けて：「母子と助産師の日」参加 全国助産師との交流、1年の振り返り 〔今村〕									
15回	助産師としての将来ビジョン：助産師の卒業時の到達目標と到達度 助産師のキャリアプランとクリニカルラダー 〔今村・井上〕									
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
・実習施設の助産実践システム発表（50％）〔今村〕 ・ガイドライン筆記試験（10％）〔今村〕 ・継続事例助産録評価（10％）〔今村〕 ・開業計画（30％）〔武智・今村〕 トータル60点以上を合格とする。										
教科書	我部山キヨ子他 「助産学講座10 助産管理」（医学書院）									
参考図書等	・成田伸他「助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全」（日本看護協会出版） ・日本助産師会編「助産所開業マニュアル改訂版」（日本助産師会出版） ・日本助産師会編「助産業務ガイドライン」（日本助産師会出版） ・福井トシ子他「助産師業務要覧」（日本看護協会出版会）									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
実習施設の助産実践システムや継続事例記録、開業計画などの発表準備について時間外の学習が必要となる。										
関連科目										
前科目	S101	助産学概論		助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ	S111	周産期ハイリスクケア論		助産学実習Ⅰ～Ⅲ		
後科目										
実務家教員										
備考	・第13回の開業計画発表は、まつやま助産院のスタッフに対してプレゼンテーションを行う。									